

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3129518号
(U3129518)

(45) 発行日 平成19年3月1日(2007.3.1)

(24) 登録日 平成19年2月7日(2007.2.7)

(51) Int.Cl.

B 6 5 D 23/00 (2006.01)

F I

B 6 5 D 23/00

P

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2006-6483 (U2006-6483)
(22) 出願日 平成18年7月12日(2006.7.12)(73) 実用新案権者 505306739
株式会社インダス
大阪府東大阪市大蓮東4丁目12番41号
(72) 考案者 岩田 大樹
大阪府東大阪市大蓮東4丁目12番41号
株式会社インダス社内

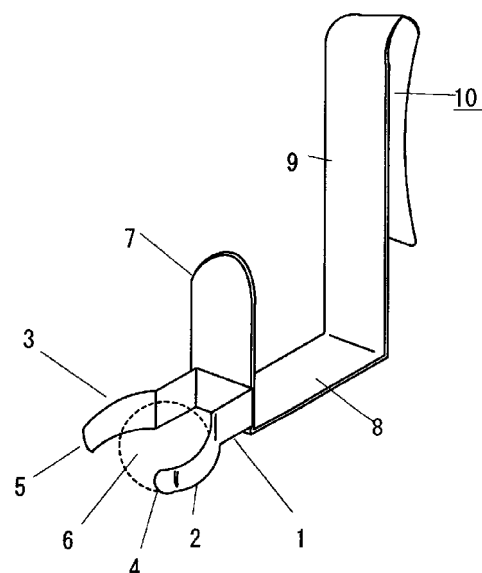
(54) 【考案の名称】 携帯型ペットボトルホルダー

(57) 【要約】

【課題】 ペットボトルを腰やカバン等に吊り下げて携帯することができるとともに、片手で簡単にペットボトルの着脱ができる携帯型ペットボトルホルダーを提供する。

【解決手段】 符号10を腰やカバンに掛けてペットボトルを携帯し、伸縮可能なバネ式加工がなされた符号1で、ペットボトルの首部分を挟み込む手段を設けることにより、自在にペットボトルの着脱を可能にしたことを特徴とする。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

腰ベルトやカバン等の一部分を符号 10 に挟み込み、ペットボトルを携帯できる手段を一端に設け、ペットボトルの首部分を固定する符号 1 が伸縮可能なバネ式であるという特徴を利用し、ホルダーから容易にペットボトルを着脱させることを可能にした、携帯型ペットボトルホルダー。

【請求項 2】

窪み部分符号 8 を設け、タオルなどを掛けることも可能にした、請求項 1 記載の携帯型ペットボトルホルダー。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、ペットボトルを携帯する際に使用するペットボトルホルダーに関する。

【技術背景】**【0002】**

従来のペットボトルホルダーはペットボトルを袋に入れ、袋に取り付けられた紐を肩や腰に掛ける構造のものや、ペットボトルを裸のままペットボトルの首部分にゴム輪や紐輪等を掛けて、腰や肩に吊るす構造のものが存在する。

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】****【0003】**

しかし袋に入れてペットボトルを携帯する構造のものは、ペットボトルを袋から出し入れするのに手間がかかる。さらに、袋に入れたままでは中身が飲みにくいという弊害も生じる。また、ペットボトルを裸のまま携帯できる構造のものは、ペットボトルホルダーからペットボトルを着脱するのが容易にできないものが多い。さらに紐で吊り下げて腰や肩に携帯すると、歩行時にぶら下げられたペットボトルが揺さぶられ、歩行等の邪魔になる。

【課題を解決するための手段】**【0004】**

そこで本考案では、ペットボトルがホルダーにしっかりと固定され、且つ着脱が容易にできる手段として、ペットボトルの首部分を両サイドから挟んで固定する方法をとり、挟む材質を伸縮可能なバネ式金物にした。そうすることによりペットボトルをペットボトルホルダーに取り付け時には、バネ式金物がペットボトルを挟み込み、しっかりと固定される。取り外し時には、ペットボトルを片手で引っ張るだけでバネ式金物が伸び、簡単にペットボトルをペットボトルホルダーから取り外せることを可能にしたのである。

【実施例】**【0005】**

本考案は、次のように本考案の精神を逸脱しない限りにおいて種々の改変を行って実施することが可能であって、そして本考案はこれ等を改変実施されたものにも及ぶものである。

・ペットボトルホルダーの材質を金物ではなく、合成樹脂などの、別の材質に変えて製作する。

・ペットボトルの首部を挟む符号 1 を、サイズ違いや形状違いにして、同じ用途で使用する。

【考案を実施するための最良の形態】**【0006】**

図は本考案の実施例を示したものであり、以下、この実施例について説明する。まず、符号 1 がペットボトルの首部分を挟み込むバネ式の金物であり、符号 2 と符号 3 の間の空間 6 に、ペットボトルの首部分を挟んでペットボトルを取り付けることができる。前述した通り、符号 1 の金物はバネ式になっており、ペットボトルの首部分を符号 1 の先端部分

10

20

30

40

50

である、符号 4 と符号 5 の狭間に押しあてると、符号 1 の口元が開き、符号 2 と符号 3 の間に首部分が入り込み、空間部分符号 6 に収まる。首部分が空間部分符号 6 に収まると、再び先端部分の符号 4 と符号 5 が縮み、ペットボトルの首部分を挟み込んだ状態となる。

【 0 0 0 7 】

また、窪み部分符号 8 を設けることによって、窪み部分にタオル等を掛けることが可能である。さらに、窪み部分符号 8 を設けることによって、符号 7 と符号 9 の間に空間が生まれ、ペットボトルホルダーを腰に掛けた際、ペットボトルが足にぶつかり、歩行時の邪魔になるという事態を回避できる。

【 0 0 0 8 】

さらに、符号 10 の曲げ加工を施すことにより、腰やカバンへ引っ掛けて気軽に持ち歩くことができる構造となっている。 10

【 0 0 0 9 】

符号 1 によって固定されているペットボトルの首部を、開口部分の方向に引っ張ると、ペットボトルの首部を挟んでいる符号 2 と符号 3 が外側を開き、片手で簡単にペットボトルをペットボトルホルダーから取り外すことが可能である。

【 考案の効果 】

【 0 0 1 0 】

よって、本考案の携帯型ペットボトルホルダーにより、片手で簡単にペットボトルの着脱が可能になり、ペットボトルホルダーから、ペットボトルを外す際に生じる弊害がなくなる。またペットボトルの首部分がしっかりと固定されているので、歩行時にペットボトルが揺さぶられ、歩行の邪魔になることもない。また符号 10 を引っ掛けるだけでペットボトルホルダーは固定されるので、ズボンの腰やカバン等、様々な箇所に引っ掛けて使用することができる。 20

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 1 】

【 図 1 】 本考案に係る携帯型ペットボトルホルダーの斜視図である。

【 図 2 】 使用時に伸縮するバネ式金物の状態を示す平面図である。

【 図 3 】 使用状態を示す側面図である。

【 符号の説明 】

【 0 0 1 2 】

1 . バネ式金物具

2 . ペットボトル首部挟み部

3 . ペットボトル首部挟み部

4 . バネ式金物先端部

5 . バネ式金物先端部

6 . 空間部

7 . こぼれ止め部

8 . タオル掛け用窪み

9 . こぼれ止め部

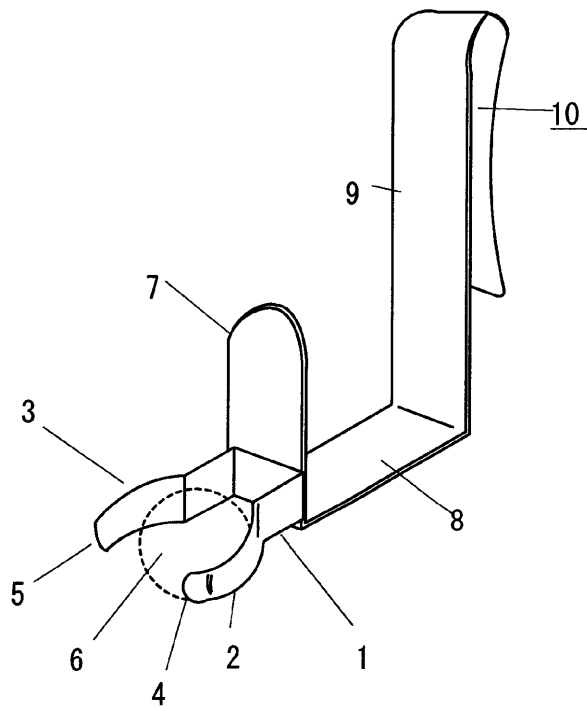
10 . ベルト掛け具

11 . ペットボトル

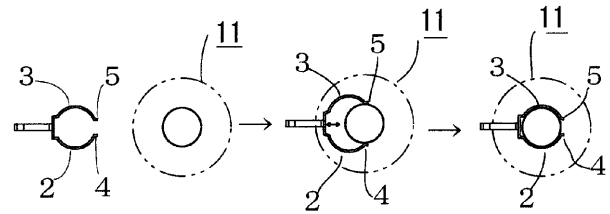
30

40

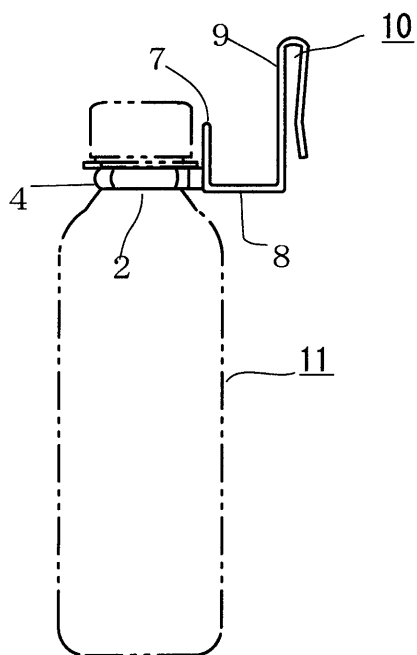
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【手続補正書】

【提出日】平成18年9月7日(2006.9.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】

衣服の腰及びベルトや、カバンなどの一部分に考案のフックを掛けて、ペットボトルを携帯できるという手段を一端に設け、ペットボトルの首部分を挟み込む半円形状のホルダーが伸縮可能なバネ式であるという特徴を利用し、ホルダーから容易にペットボトルを着脱させることを可能にした、携帯型ペットボトルホルダー。

【請求項2】

フックとホルダーの間にタオルやキーホルダーなどを掛けるための窪み部分を設けた、請求項1記載の携帯型ペットボトルホルダー。

【手続補正書】

【提出日】平成18年11月11日(2006.11.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】

ペットボトルを衣服の腰及びベルトやカバン等の一部分に掛けるためのフックが一端に設けられており、フックと連結されており、ペットボトルの首部分をバネ性により着脱自在に挟み込む半円形状のホルダーを有する事を特徴とした、携帯型ペットボトルホルダー。

【請求項2】

フックとホルダーの間にタオルやキーホルダーなどを掛けるための窪み部分を設けた、請求項1記載の携帯型ペットボトルホルダー。